

# 環境に係る情報協議会

## 国営総合農地防災事業 川湯跡佐地区

### 1. 環境に対する考え方

#### 《農村環境の現状と課題》（「弟子屈町田園環境整備マスタープラン」より）

##### 【現状】

・町全面積の65%を阿寒摩周国立公園が占めている弟子屈町は、数多くの動植物が生息する豊かな自然を有するとともに、摩周湖・屈斜路湖等の観光資源に囲まれた地域である。

##### 【課題】

・天然性の広葉樹林などが広く分布し、訪れる観光客とのふれあい場としての活用が期待されるため、観光振興面での森林資源の持続が求められている。  
また、水源かん養のための水土保全機能を維持・増進する必要がある。  
加えて、恵まれた自然環境を生かすためには、建造物の形態や色彩などに配慮し、農耕地や市街地などと違和感なく調和させることが重要である。

#### 《環境保全の基本的考え方》（弟子屈町「田園環境整備マスタープラン」より）

- ・水土保全機能の維持・増進。
- ・森林の維持、森林の持つ機能を最大に図る。
- ・周辺環境と調和のとれた事業を展開。

### 2. 環境調査計画の策定に向けた調査

#### 《基本方針》

##### ○調査位置の考え方

整備対象の排水路は2系統あるが、流域が大きく、より多くの種が確認されると考えられるアメマス川幹線排水路において調査を行う。

陸域・水域の環境の違いを踏まえ、排水路の上・下流各1箇所にて調査を行う。

上流部：(陸域)摩周から続く山地に隣接

(水域)河床勾配が急で、河床材は礫質が混じる

下流部：(陸域)湖畔の山林・原野・湿性環境。周辺には平坦な農地が広がる。

(水域)河床勾配は緩やかで、河床は火山灰に覆われている。

##### ○調査項目の考え方

既往の環境調査位置は本地区から離れており、流域内の排水路周辺の環境状況の把握には情報が不足している。

このため、排水路周辺において生態系調査を実施するとともに、地域内を流下する排水路の水質調査を実施する。

#### 《環境調査内容》

- 調査項目 ①哺乳類 ②鳥類 ③魚類 ④両生類・は虫類 ⑤昆虫類  
⑥底生動物 ⑦植物 ⑧水質

- 調査方法
- |         |                       |
|---------|-----------------------|
| 哺乳類     | 目撃法、フィールドサイン法         |
| 鳥類      | ポイントセンサス法             |
| 魚類      | 生息密度調査、採捕調査、産卵床調査     |
| 両生類・は虫類 | 目撃法                   |
| 昆虫類     | 任意採集法、ベイトトラップ、ライトトラップ |
| 底生動物    | 定性採集法                 |
| 植物      | 植物相調査                 |
| 水質      | SS、濁度                 |